

## シンポジウム

### 「カプセル内視鏡の進歩と未来」

司会 中村 哲也（獨協医科大学医療情報センター）  
藤森 俊二（日本医科大学千葉北総病院消化器内科）

#### 司会の言葉

カプセル内視鏡は、本邦における臨床応用開始から 20 年が経過した。その間に、当初の保険適応であった原因不明消化管出血だけではなく、クローン病を含む小腸疾患全てに保険適応がひろがり、カプセル内視鏡の臨床応用範囲は非常に拡大した。消化管病変の診断だけではなく、その非侵襲性から薬剤投与試験を含むさまざまな試験に使用され、暗黒臓器と呼ばれていた小腸の病変解明に大きな役割を果たしてきた。さらに、大腸カプセル内視鏡が登場し、特に大腸内視鏡が困難な症例に光明をもたらしている。原因不明消化管出血診断やクローン病に対する使用法、小腸病変が疑われる症例に対して使用した場合の疾患やその頻度、小腸疾患の経過観察法などに新たなる知見が集積されてきている。大腸カプセル内視鏡の使用についても、前処置のみならず、大腸内視鏡の検査状況との対比、経過観察などの報告が期待できるようになってきた。ここでは、カプセル内視鏡の有用な使用法を議論するとともに、カプセル内視鏡が明らかにした様々な情報を共有し、未来におけるカプセル内視鏡研究のヒントを得ることができる場としたい。意欲的な発表を期待する。